

学位論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 第 号		
所属	保健学専攻 生涯保健学分野 成人保健学領域	氏名	齋門 良紀
学位論文題目	Correlation between radiographic sagittal alignment, range of motion, muscle strength, and quality of life in adults with spinal deformities		
論文審査担当者	主査 木村貞治 副査 百瀬公人 横川吉晴		
(学位論文審査の結果の要旨)			
<p>本研究は、脊柱の変形と腰痛を有する整形外科外来受診患者を対象として、レントゲン写真に基づく脊柱および骨盤の矢状面上のアライメントと、脊柱・股関節・膝関節の関節可動域、上肢・体幹・下肢の筋力、そして、Quality of Life (QOL) との関連性を解析することによって、脊柱変形を呈する症例に対するより効果的な理学療法プログラムの在り方を考究することを目的として実施したものである。</p> <p>結果として、脊柱の後弯変形と、立位で踵部と背部を壁につけた際の壁と後頭骨との距離、股関節伸展の関節可動域、上肢の筋力との間に関連性がみられ、QOL の指標である Japanese Orthopedic Association Back Pain Evaluation Questionnaire (JOABPEQ) と、腰椎・膝伸展の関節可動域および腸腰筋の柔軟性との関連性がみられたことが示された。</p> <p>また、研究の限界として、2日間に分けて測定を実施したことから、被検者数が減少したため、今後、さらに症例数を増やして、脊柱・骨盤の矢状面上のアライメントや QOL と、上肢・体幹・下肢の関節可動域や、体幹・下肢筋力との関連性を解析していくことの必要性を掲げている。</p> <p>本研究の結果は、横断的観察研究の結果であることから、脊柱の後弯変形と、上肢・体幹・下肢の関節可動域の低下や、体幹・下肢筋力の低下との時系列的因果関係については不明であるが、今回の解析結果から、脊柱の後弯変形を有する症例に対するより効果的な理学療法を考究するための指標を浮き彫りにすることができたものと考えられる。</p> <p>また、審査会においては、主査および副査からの質問に対して、的確かつ論理的な回答が示された。</p> <p>以上の点から、本論文は、博士（保健学）の学位論文として価値あるものであることを主査、副査が一致して認めた。</p>			